

平成 24 年度 春期 システム監査技術者試験 解答例

午後 I 試験

問 1

出題趣旨	
<p>パブリッククラウドサービスを利用する企業が増えてきているが、当初想定していた利用目的を達成できなかったり、想定していなかったリスクが発生したりする場合がある。また、事業戦略を実現する手段として当該サービスの利用そのものが適切でない場合もある。そこで、パブリッククラウドサービス利用の企画段階でシステム監査を実施することが必要になる。</p> <p>本問では、パブリッククラウドサービス利用に当たって検討すべき内容や新たに生じるリスクの知識、及び備えるべきコントロールとそれを評価する能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問 1	(1) サービス停止時の契約顧客のデータ保全に関する契約が妥当かどうか。	
	(2) 契約している CSP 及び競合する CSP の経営状況、経営方針の変化、契約顧客数の増減	
設問 2	システム資源の追加単位	
設問 3	(1) 共通の基準で比較及び評価されなかった可能性があるから	
	(2) 想定した稼働率を下回り、業務が遅延する可能性がある。	
設問 4	データ暗号化機能オプションの追加コストとユーザライセンス料のボリュームディスカウントとの比較	

問 2

出題趣旨	
<p>新システムの導入は、業務改革を伴って実施されることで、その目的が達成されることが多い。また、業務改革は、新システムの導入に伴うビジネスプロセスの変更やシステムで管理すべき情報の質や量に影響を及ぼすことが多い。このため、新しいビジネスプロセスに対応し、情報を適切に管理する運用体制やコントロールが要求される。</p> <p>本問では、新システム導入後の監査において、新システムの環境下で新たな役割・責任を負う関連部署が備えるべきコントロールとそれを評価する能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問 1	(1) 移行した残高は顧客別合計であり、通常の手続では、詳細な債権管理はできない。	
	(2) 請求データは独自に修正されており、債権データとの調整は困難と判断した。	
設問 2	業務量 債権消込作業を実施できる要員が十分に配置されているか。	
	業務手順 各営業部から消込情報を正確に入手する手順が確立されているか。	
設問 3	(1) 正当な承認に基づいているのか確認せずに、データの修正を行っている。	
	(2) 債権データへのアクセス制限が適切に設定されているか、確かめる。	

問3

出題趣旨	
<p>近年、業務のシステムへの依存度が高まることによって、システム障害の発生件数が増加するとともに、その影響はますます大きくなっている。システム障害の低減には、プログラムなどのシステムの品質向上に加え、発生したシステム障害の分析を的確に行い、適切な再発防止策を迅速に実施することが重要である。</p> <p>本問では、システム障害の記録・分析、再発防止策の策定のための体制及びプロセスの適切性について監査を実施する能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問1	障害が保守チームに報告されず、対応が完了したケース	
設問2	(1) ① ・承認者が承認を行った日付 ② ・再発防止策が実施された日付	
	(2) 月次ミーティングの議事録で開催日及び出席者を確認し、パッチ適用のシステム日付と比較する。	
設問3	システム担当者にインタビューを行い、最新のパッチを適用しなかった理由を確認する。	
設問4	再発防止策を月次ミーティング前に実施しなければならないケース	

問4

出題趣旨	
<p>システムの本番移行段階では、限られた時間内に移行作業を完了しなければならないといった制約があり、また、予期せぬ事態が発生するリスクもある。一方で、新システムの開発やテストが優先され、移行の手順や移行用プログラムは十分なテストや検証が行われないケースもある。</p> <p>本問では、移行に伴うリスク及びコントロールを評価する能力、並びにコントロールの有効性を確かめるための監査要点や監査手続を策定する能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問1	移行リハーサルを実施したときの条件は、本番移行時と同じ条件か	
設問2	リスク 本番移行後のデータに不具合が発生するリスク	
	監査手続 修正された移行用プログラムの結合テストの実施を、テスト結果報告書で確認する。	
設問3	① ・移行データの処理結果の確認時に、処理件数が現行データと一致していることを確認する。	
	② ・サンプルを何件か画面表示し、“顧客ランク”が適切に付加されていることを確認する。	
設問4	移行を中止する場合の判断基準が明確になっていること	